

みんなでつなく校内支援体制

徳島県立池田支援学校
安宅 咲貴

📍 本日の内容

- 校内支援体制の考え方
- 校内支援委員会プチの紹介
- 新しいことの始め方

📍 人はなぜ「相談」しづらいのか

物理的要因

いつ？
どこで？
誰に？
どうやって？

心理的要因

迷惑かも…
相談しても無駄？
そんなこと聞くの？
と思われるかも…



📍 相談することの意味って？

考えていることの整理

新しい視点

自分とは違うアイデア



校内支援体制の考え方

校内支援体制って誰のもの？

特別支援教育に関わる教員？
特別支援教育を受けている子ども？



校内支援体制の考え方

全員参加

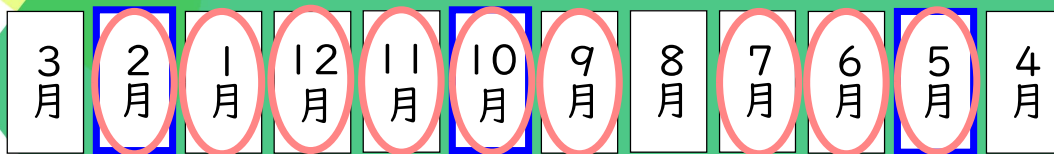
全ての教職員が参加する

全員対象

全ての子どもを対象にする

校内支援委員会

校内支援委員会プチ



年に3回の校内支援委員会（児童理解）

＋毎月 **ちょこっと集まる時間**

全部合わせて $3 + (9回 \times 3グループ) = 30回$

低・中・高に分かれて実施

校内支援委員会プチの紹介

時間：10～15分

頻度：低・中・高に分かれて月1回

対象：学年団、管理職、養護教諭、特別支援教育Co、支援員

内容：各学級ごとに、特別支援に関するエピソードや
困っていることなどを報告

→知っていること、意見を共有

→支援が必要な児童についてニーズの検討

※もっと話し合いが必要な案件は、ケース会へ

➡ プチの特徴

- ①時間が**短い**・・・10～15分
- ②**立ちスタイル**でコンパクトな会議に
- ③月に1回**必ず**開催（研修計画に位置づけ）
- ④**その場で**支援の提案ができる
- ⑤記録を回覧・・・**全校で共通理解**

校内支援委員会プチ

〇年

実施日 7月5日

プチの記録

名前	1組	〇〇 〇〇	支援ニーズ	学習	ニーズ3	発信者	担任
・かけ算の筆算の方法が身についていないため、全体での学習進度についていくことが難しい。					人 〇	アババ	ケース会
					計算の場面では、T2や支援員が先取りで声をかける		
名前	2組	△△ △△	支援ニーズ	対人	ニーズ5	発信者	担任
・担任との毎日のふり返りで、行動が少しずつ落ちついてきた。 →行動情緒（対人等）支援ニーズ6から5へ					人 〇	アババ	ケース会
					ふり返りの期間を毎日から1日おきにするか、自分ふり返りをおこなう方法に変えていく		
名前	1組	〇〇 〇〇	支援ニーズ	不登校		発信者	保健室
・算数の前に「おなか痛い」と訴えて、保健室に来ることが多い。熱をはかると、納得して教室に戻る。算数にストレスを感じているのかもしれない。					人 〇	アババ	ケース会
					学級担任と連携する		

プチ終了後に、**全教職員**に回覧

いつでも見直
ことができるよう
に、**学年ごとの
ファイルに保管**

※昨年度以前の
情報も**すぐ見る
ことができる**

校内支援委員会プチ

困っていること等の**共有**
支援のアイデア**共有**

うまくいっている
ことの**共有**

配慮や支援の実施

統一した配慮・支援

プチの記録回覧

全校での情報**共有**
支援方法の**共有・統一**

担任にとって

- ・月に1回、学級での支援をふり返る機会
- ・悩みを共有する場、相談の練習

担任以外にとって

- ・みんなで児童を見守る意識
- ・学級に入ったときに支援すべき児童が分かる
- ・校内で会った児童に声をかけることができる
→いいことなら、誰からも褒められる経験に
→改善点なら、みんなが見てくれている経験に

大切なこと

- ①情報共有して関わり方を**統一**すること
- ②良い関わりを**継続**すること
- ③関わり方について**振り返**ること

★各校(園)に合わせた体制づくりをする

新しいことの始め方

- ①理由を考える
- ②利点を考える
- ③根回し
- ④チームづくり
- ⑤全体への周知
- ⑥実施
- ⑦フィードバック
- ⑧続ける努力



新しいことの始め方

① 理由を考える

始めたい理由、始めた方がよい理由を考える。



- 子どもたちのことについて、情報共有できる機会があると、もっとよい関わりができる
- よい事例の紹介

新しいことの始め方

② 利点を考える

どんなよいことがあるかを考える。



- 学校全体の力を集結させて、全ての子どもたちについてみんなで考えることができる
- 担任だけが抱え込む心配がなくなる
- いろいろな人が関わることで、支援の幅が広がる

新しいことの始め方

③ 根回し

管理職をはじめ、キーパーソンの理解者を増やす。



- 相談の順番は守る
- 相談ベースで話をして、意見を積極的に取り入れる
- 根回しはできるだけ短期決戦で

新しいことの始め方

④ チームづくり

校内でチームをつくり、実施方法を相談する



- チームは特別支援関係だけに偏らないように
- どのように運営するかを相談
- 担当が変わっていくことを前提に考える

新しいことの始め方

⑤ 全体への周知

職員会議等で、情報の差がでないように周知する



- 何も知らない人がいることを念頭に、丁寧に説明
- どんな効果を期待しているかも伝える

新しいことの始め方

⑥ 実施

とりあえずやってみる



- うまくいかないことを前提に、実施してみる
- ポジティブなフィードバックを意識的に
- 誰もが話しやすい環境づくり
- できそうなアイデアを引き出す

➡ 新しいことの始め方

⑦ フィードバック

振り返りと改善、周りへのポジティブなフィードバック

- 
- やってみてどうだったかチームで振り返る
 - はじめのやり方にこだわらずに改善していく
 - 周りへの感謝、変化に対するフィードバックを忘れずに

➡ 新しいことの始め方

⑧ 続ける努力

効果を感じられるまで、諦めずに続ける

- 
- 最低3ヶ月は耐える
 - 自分の学校(園)に合った方法に進化させていく

➡ 校内支援体制が整うと

教職員の子どもへの関わり方が変わる

一人ひとりの子どもが変わる

学校全体が変わる

➡ まとめ

